浜松
みなみ
発行所
県立浜松南高校新聞部
静岡県浜松市米津町
印刷
浜松共同印刷株式会社

メガネは
吉田屋
浜松駅前広小路
TEL ㊗ 1181

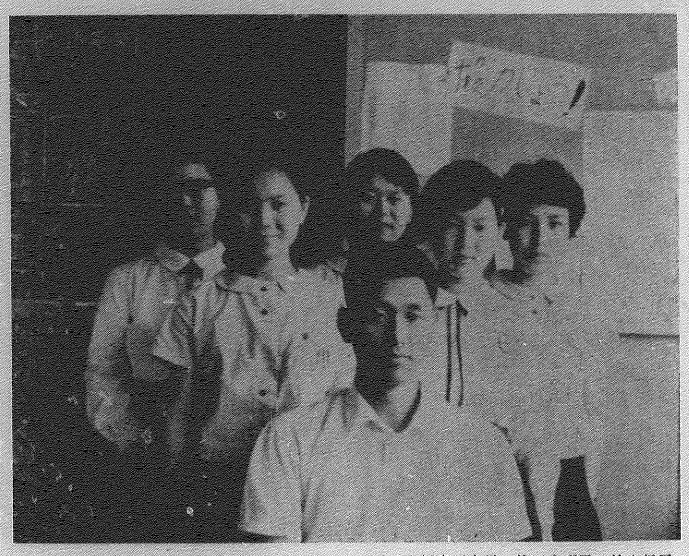
新生徒会発足

心機一転を図る!!

生徒会の充実化を!!

新役員に期待する

去る六月二十一日、後期生徒会長の選挙が行なわれ、三十二HRの小杉憲司君が八百九票を獲得し、みごと生徒会長に選ばれた。ようやく生徒の間で生徒会のありかたというものが注目されてきた現在、数多くの問題をかかえた生徒会を小杉会長がいかにして運営していくか注目の的となろう



左より、榊原美千子・高柳潮子副会長・飯田みね子・小杉憲司会長・片平すず子・鈴木信子

六月十二日、選挙管理委員会が発足し、同十四日から十六日まで四十二年度後期生徒会長立候補者受付が行なわれた。この間に二十三ERの守屋誠潤君と三十二ERの小杉憲司君が立候補申し込みをした。こうして両君による後期生徒会長の座を目指して選挙運動が始まったわけである。

選挙運動の内容は、小杉君がクラスの巡回とポスター一枚、守屋君がポスター一枚だけ、といいたって地味なものではあったが、六月十九日の立会演説会に引き続いて、同日夜、開票が行なわれた。その結果、小杉君が大差で守屋君を押さえ、後期生徒会長に選ばれた。内容は次の通りである。

投票総数　一三七五票
小杉憲司　八〇九票
守屋誠潤　四二六票
無効　一四〇票

こうして小杉憲司君が後期生徒会長に選ばれ、生徒会の新メンバーも次のように決定した。

会長　小杉　憲司・三二HR
副会長　高柳　潮子・二二HR
会計　片平すず子・二九HR
　　榊原美千子・二六HR
書記　鈴木　信子・三八HR
　　飯田みね子・二九HR

次に前期生徒会長の片山君と、生徒会顧問の大平先生に小杉君への希望を尋ねてみた。

【片山前期会長の話】

小杉君に次の三つの事を要望したい。

○今までの仕事を確実に受け継いでほしい。

○一つ一つの仕事を中途半端に終わらず、充実したものにしてほしい。

○自分から進んで仕事を見つけ出し、積極的な生徒会を作ってほしい。

【大平先生の話】

これまでの生徒会活動に於て、一番欠如の事は、生徒と生徒会に対してあまりにも無関心なということである。生徒各人が本当に生徒会に関心を持つという事は不可能かもしれない。しかし、現在まだまだ生徒会への関心を深める余地はあると思う。その点を小杉会長がどういう方向にもっていくか大いに期待がかけている。

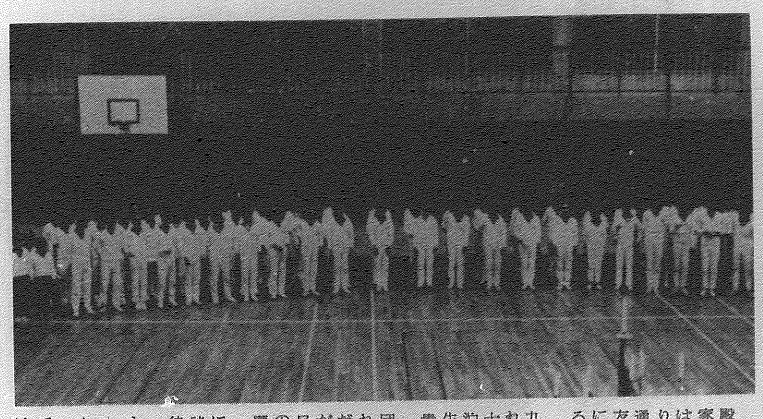
中学生の進学率の向上とともに高校生（女子を含む）の作業職への転換は、ここ数年のうちに決定的になるようである。

一・二年生の就職希望者は、この辺の事情をよく呑み込んで貰いたい。なお職業と二流生産会社、企業関係の事務職、公務員というような職に

阿蘇 御殿場 集団訓練を考える

修学旅行よりはよいのだが……

★……御殿場、阿蘇の集団訓練も今年で四年目を迎え、実践的段階からより充実……★
★……の段階へとその歩みを続けている。しかしながら一方では集団訓練の意義を……★
★……再検討する声が高くなってきている此のごろである。そこで我々はこれを集……★
★……に、もう一度我々の集団訓練をふり返って、内容のある行事となるよう該……★
★……を上げて努力しよう。……★



不満の声高い

我が南高では、毎年一年生は御殿場、一年生は阿蘇の国立青年の家で集団訓練を行っている。これは他校のいわゆる修学旅行の代わりに行われるもので、集団訓練を通じて規律正しい生活、集団行動、友情等を養い学校生活や家庭生活に生かしていこうとするものである。

今年の集団訓練は、一年生五月九日～十三日（A・B班に分かれ、泊二日）、一年生五月八日～十九日（一・二・三班に分かれ五泊六日）に行なわれた。一・二年生諸君はそれぞれに楽しい思い出、貴重な体験を得たことであろう。

ところが、この我が校独自の集団訓練も、今一度考え直さなければならない時点に来ているようだ。それは生徒の間に、不満の声が高まっていること、集団訓練の目的が真に理解されていない点等の問題が起こってきているからである。

新聞紙では特にこの二点を中心に、集団訓練のあり方について座談会、インタビューを行なって生徒の意見、考えを聞いてみた。

まず、座談会での意見をみてみよう。

―集団訓練の目的は生かされていると思いましたか。

一年（男）―御殿場と阿蘇の目的は集団訓練にあるけど、一年生はそれを徹底して行い、二年生はそれを徹底です。だからぼくは阿蘇の成果をより期待します。

―今日は忙しいところ、どうもありがとうございました。

校長先生は、我々に多いに期待しておられる。我々も、もう一度集団訓練の受け方について考え、よき社会人、大学生になるために、集団訓練を役立てようではないか。

成果はみられない

―それでは修学旅行とくらべてどうでしたか。

一年（男）―御殿場は確かに集団訓練にはちがいありませんが、わずか五日間で、多くの見学をしている修学旅行は、名所を見た感傷ぐらいが思い出として残っているにすぎないですね。その点野外教室に演とはしているけれどよい思い出になったと感じますね。

二年（女）―それに、すばらしい良心にふれることができたということ、これは講外教室ならではのことですね。

―それでは最後にこれからの御殿場、阿蘇の行事をもっとこうしたらよいとか、あのしたらよいとかというようなことはありませんか。

二年（男）―御殿場と阿蘇の目的は共に集団訓練にあるけど、一年生はそれを徹底して行い、二年生は一年生の時の修学旅行をかねて行なうべきだと思っています。

―それでは、最後の日に水泳をするなどの意見がありますね。集団訓練が修学旅行のかわりもしれませんが、集団訓練の行事ならば光輝化された事所へ行って、阿蘇で味わったあの自然に対する感激が薄らいでしまったような気さえしましたね。その点をもっとよく考えてもらえたら良いと思います。

一年―御殿場に合同体操をやりに行ってきたみたいでした。もっとフォークダンスをやりたかったですね。

以上のような意見を得ることができた。それでは次にインタビューの時の意見をみてみよう。

問　今の状態でよいと思いますか

―いいですね。みんなが生活を共にするってすばらしいことだと思いました。友達もできるしね。もっと近い所でも楽しめますね。もっと近い所であればいけのことができたら良いと思います（一年女子）

―いいですね。なんといっても自然がよかったから。特に修学旅行へ行っても、その時は集団に従って生活してきたけれど、集団訓練が終われば、また生活の反省会をしてしまう。日常生活の反省会をしてしまう。（一年女子）

―生活されています。少なくともその意味に合致するものを得ることができた。（一年男子）

問　集団訓練に対する対人関係、短時間の有意義に過ごした方。（一年）

―自然を満喫できた。（一年）

―礼儀正しくなった。（一年）

問　その他の意見として何がありますか。

―クラス討論会もを活討論の方がよい（一年男子）

―日数をもう少し長ほう。

―クラス討論会もを活討論の方がよい（一年男子）

―自由時間が欲しい（一年）

―船の使用はやめた方がよい。

インタビューにおいて付加のような意見を得ることができた。

座談会、インタビューの両方とも、集団訓練に対する不満の声が以外に高かった。

大多数の人はこれといってはっきりした理由は持っていない。しかし、「修学旅行すりは有意義だと思う」のだがなにか割り切れない気持が残っているようだ。これは何かから来るのであろうか。その理由として、「あまりにも時間にしばられていて、自由時間が少なすぎる。それに先生方がやかましく言いすぎるのではないか」（一年女子）などが上げられた。これが校内での礼儀が悪いですからね。（一年男子）

―生かされていないようですね。

―生かされていません。あそこに行ってもらうべきだと思います。

問　意義は生かされていると思いましたか。

―生かされていないようですね。

問　今の状態でよいと思いますか

―いいですね。みんなが生活を共にするってすばらしいことだと思いました。友達もできるしね。もっと近い所でも楽しめますね。もっと近い所であればいけのことができたら良いと思います（一年女子）

―いいですね。なんといっても自然がよかったから。特に修学旅行へ行ってもらうべきだと思います。

問　集団訓練に対する対人関係、短時間の有意義に過ごした方。（一年）

―自然を満喫できた。（一年）

―礼儀正しくなった。（一年）

問　その他の意見として何がありますか。

―クラス討論会もを活討論の方がよい（一年男子）

―日数をもう少し長ほう。

―クラス討論会もを活討論の方がよい（一年男子）

―自由時間が欲しい（一年）

―船の使用はやめた方がよい。

インタビューにおいて付加のような意見を得ることができた。

座談会、インタビューの両方とも、集団訓練に対する不満の声が以外に高かった。

大多数の人はこれといってはっきりした理由は持っていない。しかし、「修学旅行すりは有意義だと思う」のだがなにか割り切れない気持が残っているようだ。これは何かから来るのであろうか。その理由として、「あまりにも時間にしばられていて、自由時間が少なすぎる。それに先生方がやかましく言いすぎるのではないか」（一年女子）などが上げられた。これが主因のように思われる。

燃えつづけよ 阿蘇の灯

阿蘇野外教室

風さわやかな、五月の八日から十九日まで、二年生待望の阿蘇野外教室が雄大な阿蘇山のもとで繰広げられた。一班（八日～十三日）二班（十一日～十六日）三班（十四日～十九日）と三つの班に分かれての編成であったが、幸いとの班も天候には恵まれ楽しく過ごすことができたようである。しかし今年度の阿蘇野外教室は、昨年あたりから起こった、野外教室は集団訓練になっているか等の問題をかかえ、また現在修学旅行を行っている学校の大部分の中で、本校の野外教室は新しい行き方であると、各方面から注目をあつめての阿蘇行きとなった。

初日、浜松から大阪までは新幹線によるスピード旅行。しかし大阪から別府までの船の旅には、そうとう閉口する者も出てきた。それでも"鳴また鳴"といわれている瀬戸内海の風景は、みんなの疲れは裏腹に美しい眺めであった。暗闇の海に浮かんだ緑のネオンのような夜光虫の群れや、冷たい風の中で迎えた瀬戸内海の朝等は貴重な経験と教訓とを忘れずに、いつまでも胸の中にしまっておいて欲しい。

別府より一路南西へ、目的地である国立阿蘇青年の家は、広大な草原の中にあった。午前八時三十分の起床にはじまり午後十時三十分の消灯に終わる。きっちり組まれた日課と時間のファイトと緊張感とで消化していった。しかしながらといって、事がすべて満足に運ばれたわけではなかった。その例を上げれば、公共物の使用度の整備の不完全、先生はじめ他からの声がかからなければ行えない種種の怠慢、ある事からBの事へ、その時々の切り換えがへたで、その時々の訓練に十分な緊張を持てないことが、挙げれば切りがない。これらは僅かなことのようであるが、集団という形を保っていく上において個人個人が自覚しなければならない重要な事柄である。

第一日目は野外活動として草千里、中岳へ行った。しかしあいにく山は霧で、中岳へは一班だけが行くことができた。第一班は初日に時間の関係で、地獄めぐりがなかったために一班のみ中岳へ行ったにすぎない。草千里はその名の通り、どこまで続くかと思われるほど二面の草原である。季節から青々と輝った草が初夏の風になびき、むせかえるほどの草の香の中で、寝ころがり者あり、語らう者あり楽しいひとときを過ごすことができた。中岳は阿蘇火山丘の一つである火口からもうと白煙を噴き上げ凄まじい音を立てている。

三日間の日程の中で主なものとして、この野外活動の他に五日間の集団訓練、キャンドルサービス等が挙げられる。講話会では、学校生活に関することが討議された。「人間いかに生きべきか」「人生いかに過ごすべきか」等のテーマから、「なぜモテないのか」等ほぼ楽しいテーマまでさまざまであるが、常々考えていること、思っていることがテーマとして選ばれたのであろう。

キャンドルサービスでは、何千年もの昔から燃え続けている阿蘇の火を灯して行なわれた。その火を囲んで参加したそれぞれの団体から、民謡、社歌、校歌、寸劇等が披露され、楽しい一時を過ごした。

阿蘇の夜もふけ、三日間の青年の家での生活も翌日の朝をもって終わりを告げた。

あれから二カ月、随分楽しいと思った野外教室もだんだんその感激が薄れてきたこのごろである。しかし、かけがえのない高校時代に多くの友と寝食を共に過ごした日々を忘れることは決してないであろう。社会人、大学生となってからも、阿蘇青年の家で得た貴重な経験と教訓とを忘れずに、いつまでも胸の中にしまっておいて欲しい。

キャンドルの灯を囲む若人の集い

御殿場集団訓練 富士の姿くっきりと

雨・雨・雨……

A班　B班

御殿場集団訓練は、一年生五月九日から十三日まで、御殿場国立青年の家で個別の一年生集団訓練が行なわれた。

御殿場は富士・箱根岡火山の網目の裏合間にあり、夏は登山客で賑わう様子が楽しめる良い場所である。国立中央青年の家は海抜七百メートルの高地にあり、御殿場駅から西へ約六キロメートルのところにある。このすばらしい環境の中で三日間、心ゆくまで心身を鍛えた。

A・B両班とも予定より数日早く、市役所前を出発し、雨先よいスタートが切った。これは今までにないことである。渋田丸子と沼津で休憩し、予定通り午後一時前に青年の家へ到着した。

着くと直ちに入所オリエンテーション・現会式が行なわれ、国立中央青年の家での過ごし方などいろいろ注意された。それから家へ誘導され、三日間にわたる寝生活のスタートが切った。A班はどの班になると雨ばかりが降りなってきて、ついに雨が降り出してしまった。結局三日間も降り続いてしまい、予定が大幅に変更された。

続いて体育館で合同体操が行なわれた。富士山生の指導で一時間馬校生体操をし二時間前頭の体操に移った。これは同会者の話が物快なので楽しく聞くことができた。続いて夕食、初めてのセルフサービスというが法で楽しく食事をした。しかし慣れない人が多く、不満そうな人もあった。

入浴を終えて七時から五五話会が行なわれた。各五五とに部屋に分かれて話題を意見を出し合った。しかしもう少し時間がほしいという声も出た。

一日目の野外活動の乙女峠行きは両班とも中止になり、代わりにA班は富士五湖のうち、山中湖、河口湖へ行くことになった。またB班は紅葉台へ登り、雄大な富士を仰いだ。湖や富士山をバックにシャッターを切ってキャンドルサービスでは特製のキャンドルサービスでは各クラス録練習の成果を見てもらおうと思ったが、雨のため中止となった。

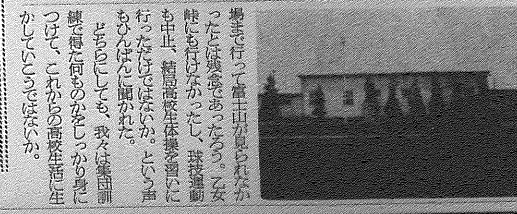
意義を一口で言うならば、青年の家での生活を毎日の生活に生かすことである。

一般的について、観察しなくなった。友達を得た、自分を知ったなどの個人的な面には生かされているようだ。しかし、学校生活などの集団的な面には生かされていないというのが大多数の意見であり、現状のようだ。

まず賛成意見としては「集団訓練は必ずしも必要だ」（一年男子）「修学旅行と違って集団生活を持つ良好すべきである。豊成しているその中にもとかちのたりない感じている人が多かった。

このように集団訓練に対する生徒の声はさまざまである。しかしもっと意義ある生活は集団訓練の意義が生かされているかどうかと

やめた方がよいという人がかなりいた。なぜ、むやみに反対するのでなくはっきりとした自分の考えを持っている人がもっとふえていけ……」



水泳用品・登山用品
皆様におすすめ出来る品を沢山取り揃えてありますから是非一度御来店下さい
スポーツ店
有限会社 油屋
浜松市田町43　TEL㊹―4541～3

夏のペン!!
パイロット ショート ¥1,500
軽快なデザインが好評
パイロット中屋
連尺町　大通り　㊷5594

TOYO
いよいよ29日より大公開
日本ロケに話題騒然!!
ボンドシリーズ第5弾いよいよ登場!
■ショーン・コネリー／浜美枝／若林映子
■カリン・ドール／丹波哲郎／ドナルド・プリーゼンス
007は二度死ぬ
テクニカラー・パナビジョン
IN IAN FLEMING'S
YOU ONLY LIVE TWICE
浜松 東洋

南高靴の指定店
通学に・レジャーに
ハイセンスな
ワシントンの靴をどうぞ
ワシントン靴店
田町有楽街　㊷4913
ライオン靴店
鍛冶町　㊷2022
ニューワシントン
鍛冶町　㊷1922・1929

責任と自信を!!

代議員の自覚を望む

「生徒による生徒のための生徒会」ということばが嘆く叫ばれている現在、生徒の意見を広く生徒会に反映させるために大きな役割を果たしているのが、代議員会をはじめとする各委員会である。とえ云ってみることにしよう。

ところが、この各HRの代表から成る各委員会の大部分がおよそ実したものとはいえない。そこで今回はこの委員会の不振発達について、その原因と解決策について考えてみることにしよう。

まず全委員会に共通した問題点を三つ取りあげてみると、

①代議員の無責任さ
②生徒会側の連絡不足
③委員の選出法

ではこれらの二つ二つの原因と解決策について考えてみよう。

まず第一に委員の無責任さについて考えてみよう。

各委員会に行ってみて、積極的に建設的な意見を出している委員はほんの一部で、あとの委員は皆私事をしているのが現状である。こういう状態を直すために、生徒会側では故意に反対意見を出してそれに対する委員の活発な意見を待っているのだが、なかなかまくいかず、生徒会側の反対意見がそのまま通ってしまい逆効果になっていることがしばしばある。代議員というものは各クラスからその責任感と自主性とを認められて選ばれた人達のはずである。その人達がこういう状態では充実した委員会など運営できるはずがない。各委員は、自分の立場を自覚し、責任をもち、かつ自信をもって委員会に臨むべきである。

次に第二の問題として生徒会側の連絡不足ということである。このことが現在一番よく叫われているのが代議委員会である。例をあげると役員選出の場合などは大部分の委員が他のクラスの委員の名前や性格を知らないわけである。ましてそのような議題をとっさに出された場合、各委員はどうやってその役員を選び出してよいものか、とまどってしまう。しかたがないから適当に××HRの○○委員とかいうようにして名前も、顔も、性格も知らない人を決めがちしまうのが現状である。

こういった場合、生徒会側は、一週間前か、少なくとも二日くらいまでには各委員に次の議会の議題を知らせておくべきである。そうすれば委員もクラスでその議題について話し合い、十分に準備できるはずだ。

第三の問題として代議員の選出法である。現在の代議員が果たしてそれだけの責任と実行力をもった人かということである。現在の代議員の選出法を考えてみると、各クラスで、ただ人気があるというだけで代議員に選ばれた人が少なくないと思う。そういう人達がいるために各クラスの意見が生徒会まで届かなかったり、又生徒会からの連絡がクラスに届かなかったりして生徒と生徒会の間をとるのである。それではこの問題の原因はどこにあるのか。それは生徒諸君の責任感である。諸君がもっと真剣に委員会の事を考え、大きくは生徒会のことを考えて代議員を選出したならば、こんな問題が起こる事がないのである。

以上大きな問題を三つ挙り上げてみたが、これらこの問題点の一番根本は生徒諸君にあるのである。諸君は出来る事、義務感を持って役割を果たすべきである。諸君は出来る事、義務感を持って役割を果たすべきである。諸君は出来る事、義務感を持って役割を果たすべき

飛躍する運動部

好成績を収める

陸上部

ハンドボール部

ハンドボール部 二季連続優勝なる

男子ハンドボール部が対外試合において大活躍をした。

五月二十、二十一日清水商業高校において行なわれた、県スポーツ祭では一回戦シード高で不戦勝二回戦では清水東と対戦し、30−1と対勝した。二日目の準決勝では三保校と対戦し、六−八で敗れ三位決定戦は沼津工業と対戦し8−1と勝ち三位にとどまった。

春季西部大会は六月二、四日に気賀高、二俣高で行なわれた。一回戦は気賀高と対戦し、12−9で勝ち二回戦は天竜林業に15対12で勝った、そして翌日行なわれた、二俣高との三回戦では分対8と打ち破り、三戦全勝で秋季に続いて二季連続優勝をなし遂げた。

六月十七、十八日には第9回県大の目標であるインターハイ出場をかけて、インターハイ県予選が富士高校において行なわれた。一回戦は春野高校欠場のため不戦勝し二回戦は新居高と対戦し15−9で勝ち、準決勝では、三保校を16−7で破り、本校は初めて決勝戦まで勝ち進み、清水西業高と対戦した。前半本校は5−4とリードしたが後半3対6で逆転され、結局7対10の3点差で惜しも敗れインターハイ出場権を清水商業高校に譲った。

来年こそはインターハイ出場の目標が達成されることを大いに期待したい。

インターハイをめざして

陸上部 初のインターハイ出場

去る六月二十三日から二十五日までの三日間にわたって、陸上競技インターハイ東海予選が岐阜県営運技場で行なわれた。

本校の陸上部からは三年生の堀内あさ子さんが昨年にひき続き八百メートル中距離に、そして二年生の山下由見江さんが走り幅跳びにそれぞれ出場した。

堀内あさ子さん　山下由見江さん

その結果堀内さんは惜しくも出場権を逃がしてしまったが、山下さんが五メートル二十五センチで第五位という成績を修め、八月一日から四日まで福井市で行なわれるインターハイへの出場権を獲得した。

インターハイ出場というのは陸上部だけでなく、運動部でも本校初めてのことである。このことについて山下さんの言葉は三年生の私達がやらねばならないことを二年生の人がやり遂げてくれて本当にうれしい。インターハイには全力を尽くして頑張ってもらいたい。」

インターハイ出場が決定した時に堀内さんは感激のあまりこぼれし涙を流したそうだ。

陸上部顧問の鈴木昭宗先生は「陸上部からこのような選手が初めて出たことはうれしいが、陸上部の人達はかりでなく他の運動部の人達もこれに刺激され第一、第三のインターハイ出場選手が出るように、毎日の練習を熱心なく行なう一層の努力をしてもらいたい」といっておられた。

八月一日のインターハイのさいて練習に励んでいる山下さんは、「東海予選にあがらなかったけれどもベスト記録を出すことができたから、インターハイでは最善を尽して、自己のベスト記録を上回るようにしたい。」と抱負を語っていた。

私達も山下さんの活躍を心から応援すると同時に以後一人でも多くのインターハイ出場の選手がでることを期待する。

職員室だより

保健室だより

夏の健康法

夏の優勝を維持するには体力十分眠ること、冷水浴、熱いフロも効果がある。

暑さの中で人間は暑がったり、もっぱら本能的になる。一般的に温度が高くなれば化学反応は進んにくるわけだから、脳の働きも盛んになってよさそうなものなのに精神活動は衰えてくる、調べていくと、そこには体の生理的な働きと、脳の働きの間の微妙な相関係が明らかになってくる。

よく知られているように、人間は定温動物で常に体温を一定に保つために、自然の調命作用が働いている。暑い日には、多い人では一時間に二キログラム以上の汗を出して、三百カロリーの熱を放熱している。しかしその時、体の中ではこの放熱を少しでも効果的に、余分な熱の発生を少なくするために、全身の筋肉や皮膚の緊張がゆるんでいる。

「暑いと、体がハダカになると同時に頭の方もハダカになる。」と東京大学脳研究所長、時実利彦教授も言っている。だからと言って暑くてただ"動物的"になるだけなら、これは正常な反応の一つにすぎない。普段の緊張した生活から抜け出して、海や山で身や心を解放させるというのは、極めて自然なことだかだ。

夏に自然にかえることは精神衛生上からは、むしろ勧められるべきだ。問題はその際のけじめ、幸かい不幸か、人間は社会的な動物であるために単純に"原始的動物"にかえったと手放しで喜べないこともあるからだ。

暑くてもダラダラとできない人や受験勉強の必要な人には"心にネジをまく工夫"も必要であろう。

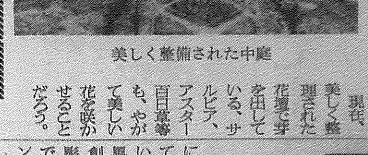
原則的には、なるべく涼しい時間を活用し、暑い時には休息をとる。そして、精神的な寛大さを防ぐには"夜の十分な睡眠"を調整したいと思う。筋肉に適度な緊張を与えて意識をはっきりさせるために冷水浴、熱いフロなどの温度刺激も有効、暑さを避けてばかりいないで、積極的に自分を暑さにさらすことも必要。これには補的な効果だけでなく、高温に慣れると汗の出方がよくなってしのぎやすくなるという、生理的な効果もあるという。

園芸 学園に緑を!!

わが校には並木が少ないと、日頃不満の声を漏らしている人も少なくない。しかし、そのような中で「自然の親しみ」時間を設け、校内美化に役立てようと地味ながらも意義のある活動をしている園芸準備委員会の存在を忘れてはならない。今でこそ整備されている中庭の花壇も、元は手に負えない荒地であった。それに手を加えて、最初に花壇が出来たのは、昭和三十九年の秋である。以来、春夏、土曜日を除く毎日、顧問の先生の御指導のもとに、一度の生徒がこの事業活動に参加して共同生活を行なってきた。

最近では父兄の方からの協力も得て、活動は中堂行なわれている。

現在、美しく整備された花壇で芽を出している、サルビア、アスター、百日草等も、やがて美しい花を咲かせることだろう。



美しく整備された中庭

好評だった天竜荘慰問

ダンス部

去る六月二十五日、我校のダンスクラブの一行が天竜荘を慰問した。当日はあいにくの悪天候で朝から強い雨が降っていたが、部員たちは日頃の練習の成果を見てもらって、寒れない人々を少しでも慰めようと雨の中を出かけた。

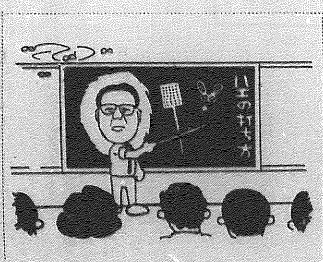
天竜荘は浜松からバスで約一時間ぐらいの所に位置し、緑に囲まれた広く静かな環境の中にある。ここでは若者から幼児までさまざまな人たちが結核の治療生活を送っている。その生活は病気を治すことは別、ほとんどわれわれの生活と変わらない。しかし、「家族と一緒に住めない（面会も月に一度だけ）のがとても寂しい」とある患者さんはしみじみと語った。

発表会は荘内の講堂において午後一時十分から一時間余りにわたって行なわれた。この日ダンス部員たちは、早くも年前中にとこの（来て教師のレッスンを重ね、発表会に臨んだ。さすがに若さゆえ、さまざまな緊張した舞台で、聞き慣れない音楽に合わせ、ぎこちない動作で、ときどきステップを間違えたりしていたが、観客たちは、なにとは出来ませんが、このくらいなら…」といって、あたりに居合わせたハエをひょいと打った。われわれなら力まかせにハエを打ってたたきつぶしてしまうところだが実っぱの手治野農園を農おっとその計画を着々と練っていると言った。何でも十坪ほどのビニールハウスを建てて白（八十本ほどのメロンの果実を植えたところで、毎日見て楽しめ、メロン畑とばかりに、手入れに余念がないとか。一方鶏もうかも何となく満足げだ。

宇治野先生がビニールハウスでメロンを栽培中だということが、職員室にいっと伝わった。何でも十坪ほどのビニールハウスを建てて白（八十本ほどのメロンの果実を植えたところで、毎日見て楽しめ、メロン畑とばかりに、手入れに余念がないとか。一方鶏もうかも何となく満足げだ。

校長先生もこのハエタタキを愛用された。校長室に居るのが退屈になると職員室にのぼって来られて、しきりにハエを追う。少し腰をかがめて目先をとがらせて、しかしメガネの奥の眼をほそめまでハエをそっとたたく。三回に一回はハエが逃げて行くが、それでも何となく満足げだ。

校長先生のハエタタキを使用されている図に見えたことだろう。一回だけ二回も打ちそこなった無拘に一四のハエを追う先生、その昔剣の達人は食膳に来たハエをハシでつまんで捕えたという話が出てほど先生を金子先生に向けると「私はそれ」とあくまでホタルを追いかけている図に見えたことだろう。一回だけ二回も打ちそこなった無拘に一四のハエを追う先生、その昔剣の達人は食膳に来たハエをハシでつまんで捕えたという話が出てほど先生を金子先生に向けると「私はそれ」



ハエ!!撲滅戦線 異常あり

藤先生、打者都筑先生、カウント2−3の時加藤先生の投げた第八球目のボールが真中にスッポリと入って来たのだが都筑先生はそれを見逃した。しかし審判の向原先生は横を向いて、何とも判定をしない。すかさず都筑先生「わるー向原先生好きだわー」向原先生顔をそに向けたまま何とも判定をしようとしなかった。結局、もう一球加藤先生が投げてやることになった。

話はまだその裏があった。今度は都筑先生がピッチャー、打者は野島先生でカウントは2−3、第六球が高めだから、真中が一せいに目をさまして、職員室の机上を見舞うことになったらしいのだ。しかし誰が、ハエたちの眠りをさましたのであろう、よほど大きな声の持ち主だけがなかなか微妙なものだった。

◆ハエが出始めた頃、職員室がハエでうるさくて困ったことがあった。蠅のわれ目やすき間で冬眠していた昨年の生き残りのハエたちが、ハエたちの眠りを追い出したのだ。

職員室だより

一学期の中間テスト第二百目のことだから五月三十日のことだ。英語科と数学科の先生方が、ソフトボールの試合をした。この試合にはいろいろな珍事があったのだ。その試合の一週間前くらいから、どちらが勝つか、即ち英語科か数学科が勝つか、ということが職員室のあちこちの片隅で話題になった。その話題の大方は、英語科の優勢を伝えていた。事実、数学科の先生方さえ、そうした世論を否定しようとしなかった。

しかし結果は6−8のスコアで数学科の勝利に終ったのだ。

6−8のスコアでもさることながら、バッタ1ボックスに立ったバッ・は絶対に振ろうとしない先生、四球で出塁したら、ヒットが出ても絶対に進塁しようとしない頑固な先生など、なかなか見ごたえのある試合だったが、審判をやってくれた向原先生のジャッジに関して重百い一幕があったのだ。ピッチャー加藤先生、打者都筑先生、カウント2−3の時加藤先生の投げた第八球目のボールが真中にスッポリと入って来たのだが都筑先生はそれを見逃した。しかし審判の向原先生は横を向いて、何とも判定をしない。すかさず都筑先生「わるー向原先生好きだわー」向原先生顔をそに向けたまま何とも判定をしようとしなかった。結局、もう一球加藤先生が投げてやることになった。

話はまだその裏があった。今度は都筑先生がピッチャー、打者は野島先生でカウントは2−3、第六球が高めだから、真中が一せいに目をさまして、職員室の机上を見舞うことになったらしいのだ。しかし誰が、ハエたちの眠りをさましたのであろう、よほど大きな声の持ち主だけがなかなか微妙なものだった。

美術部

廊下の一隅、三十八畳の部屋に小さな部屋がある。ドアを開けて中に入ると、ブーンと独特な匂いがする。美術室である。壁には風景画、人物画などが、二階には創作中の絵が。そして机の上には彫刻等が置かれている。この部屋で芸術家の卵（？）達は、デッサンを書いたり、絵の具を塗ったりしていろいろの物を創作していく。

今回は、ここで活躍する美術クラブを紹介しよう。

部員は男子十五名、女子三十九名の計五十四名である。毎週月・木・土曜三回、三十八畳B で クラブ活動を行なっている。ショーウインドウのコンクールに出品するための共同作業等が多くなるが、やはり個人の活動が多く、ハ出展準備はまるでよくないようである。

部長さんに、クラブの雰囲気やまとまり、そして将来のようなクラブにしていきたいかを尋ねてみると、「雰囲気は自由ですが、明るさがよく欠けていますね。クラブのまとまりは、学生では良くまとまっていますが、縦のつながりはあまりありません。やはり学生ごとにもやはりです。縦来はもっと多くコンクールに出品できるようにしたいし、会員が参加できるようにしたいですね。それからクラブ活動は、もっと明るくしていきたいと思います。」と、語ってくれた。

クラブ員相互の親交を深めることも兼ね、レクレーションとして年度末休みにはみんなで、スケッチ旅行に行っている。

美術部ではよく花の絵を書いているが、それには傑作な話がある「つぼみを書いていたはずなのにいつのまにか花が開き、とうとう満開になってしまった」等。彼らは、それらを見て、あの生々しい花を描くのだから、なかなか想像力がいるようだ。

今日では、学校創立以来の美術クラブも軌道に乗り、毎日地味ではあるが、熱心な活動をしている。（なお来年度も終わり、世紀に入っている。）その、日ごろの成果を、ユネスコや酬高県高校美術展等のコンクールに出品して大いに頑張ってもらおう。

又、秋には本校の文化展にも出品するそうだから、生徒諸君も大いに期待していて欲しい。そしてこの熱心な美術クラブに、暖かい

創作意欲に燃える美術部

クラブ紹介

庭球部

今回は運動部の西の一角、練習場に、熱心、熱心小気味よい音を響かせて、練習に励んでいる庭球部を紹介しよう。

なごやかな雰囲気の中で、大田（顧）、上村、白井三年生方を顧問として五十四名（男子二十名、女子三十四名）の部員達が練習に励んでいる。

三時半にグラウンドに飛び出し「最善を尽して試合に勝とう」というスローガンのもとに、最初コートの水まきと練習が始まる。一年生は主に基礎のラケットの素振りを何十回となく繰返し上級生の打ったボールの後を追いかける。二、三年生はグランドスロープ、前衛守備、サービス、レシーブとめまぐるしく練習し六時半に終了する。

はたで見ていると、庭球とはないらしい。庭球というと広いコートでかっこうよくラケットを振っているところを想像するが、このスポーツも他のスポーツと同様に毎日の練習を積み重ねることによってうまくなることができる。庭球はシングルスとダブルスがある。シングルスにおいては一対一の対戦のためのあの広いコートの半面を一人で守り切らなければならない。自己との戦いである。ダブルスの場合は、二人一組でたたかうため、二人の味方合わせなければならない。従って自分勝手は許されない。

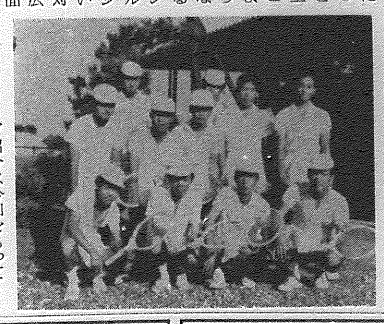
このクラブではクラブをよりよくするため、そして後輩、上級生とが一体になるために練習の合い間に時々話し合いをする。そして自分は何に中心をおいて練習するかという目標をたてて、一つ一つマスターしていくようにしている。外部の人達から見るとだらけたクラブのように見えるかもしれないが部員達はそれなりの努力をしている。

このクラブにも他のクラブと同様に練習設備においていろいろな問題点をかかえている。一、二の例を上げてみると、部員五十四名に対してコート面数がたった二つである。十一月下旬から三月までは強い浜風のため、ボールが風に流されてしまい練習がほとんどできない状態である。どちらとも庭球部にとって頭の痛い問題である。

今までの試合結果は西部大会において第四位というのが主な成績である。

今日も白いボールを追いかけ、ラケットを振っている庭球部員に今後の活躍を期待しよう。

クラブ紹介は今回をもって終了いたします。



地学部

◇百葉箱◇

本校中庭に、六月十九日、地学部によって百葉箱がお目見えした。珠算実務検定が行なわれた。その検定で本校創立以来初の一年生二級合格者が生まれた。合格したのは珠算部の中島節子さん。彼女は全珠連では初段の腕前を持つ。それなりにたいへんな努力をしているという。本人を始め、先生方もたいへん喜んでいらっしゃった。

珠算実務検定

中島さん一級に合格

去る六月十八日、本校において珠算実務検定が行なわれた。その検定で本校創立以来初の一年生二級合格者が生まれた。合格したのは珠算部の中島節子さん。彼女は全珠連では初段の腕前を持つ。それなりにたいへんな努力をしているという。本人を始め、先生方もたいへん喜んでいらっしゃった。

長期の夏休み中の生活を有意義にするのは必ず自身の力で！生活を規則正しく、健康にすごしてほしい。まとの機会に、体治しておくように。トラコーマ、結膜炎、蓄の疲、鼻血、むし歯等を治すには良い機会だ。

の故障しているところをすっかり治しておくように。トラコーマ、結膜炎、蓄の疲、鼻血、むし歯等を治すには良い機会だ。

太鼓顧問ふんだんに取り入れたラプソディ」の力強く、たくましい調から、難関クラシメンコリスムにのせて勝る情熱的な「ビリャーナス」まで、創作ダンス独特の味と良さを十分に満喫させたようだ。

その感想を、三人の人に伺ってみると、「ホントに生きていて良かったと感謝しています。」「もっとたくさんの作品を見せて欲しかったけど、慰問してくださったけどもありがたいと思います。」等であった。そして、ごうした慰問（主に婦人会や音楽バンドで、多い時は月に二回、少ない時は三月に一回程度）のうちでもこんなに多くの観客が集まったことはめったにないそうである。なお、この慰問は発表会も兼ねて行なわれたもので、昨年に引き続き二度目のことである。これからも是非続けていってほしい。

最後に、これをよい機会に、ダンス部にはもう一層の活躍を期待するとともに、他のより多くの生徒が、数多くの裏まれない人たちに対する思いやりの心を持つことをそしてそれに伴なう善行を期待したいものである。

編集後記

新聞「みなみ」も今回で十一号を迎えました。一年生最初の新聞作り、四面の発行とあってはりきっていたのですが色々の点で未熟の為最期になってあわてたるという結果になってしまいました。なお第一面で、思い出も書れたことは思いますが、阿蘇、御殿場集団訓練の間題を扱い、それについて生徒皆さんの御意見を期待しております。最期に今回の編集にあたり御協力下さいました方々に感謝いたします。

編集責任者　小泡　亘田

鎌田　英二　中山　利子　万木　英文　荒川美代子　内山　京子　山崎百合子　沢根　良子　鈴木ちづ子　池谷　恵子　小楠　浄子　後藤　裕子　神田　寧子　吉田　摩子

写真
■ポートレート
■受験写真
大関写真館
浜松 カジ町 柳通り
Tel ㊷ 5029

ヤマハ管楽器教室生徒募集！
＊トランペット科
＊クラリネット科
＊フルユート科
お問い合せ　日本楽器浜松店
㊷ 7101〜4

生徒の ための 購売部
是非御利用 ください!!
浜松南校

メガネの足立
明るい視力で
明るいくらし
浜松市紺屋町（連尺遠バス停前） TEL ② 5229

南高校制服専門
注文制服専門
男子用スリーシズンコート　規定型 / 納毛ブラシヤ（指定生地）
女子防寒コート　極上 純毛ペロア使用 / 濃紺色、毛並はビンバン仕上です
女子スーツ注文も承ります……日紡ウールサージ使用
寸法も計ります。
栗林株式会社
浜松市下池川町 TEL ㊶ 7295

装い
（高級婦人服地／東京プレタポルテ／高級婦人洋品）
呉楽屋
TEL（代）㊷ 1560